

第10回 OAG経営者セミナー  
2007年4月20日 弊社セミナールーム

## 「脳が活性化すれば会社も活性化する」

ルネッサンス・ユニバーシティ  
代表取締役社長 小田全宏氏



弊社の「アクティブ・ブレイン・セミナー」でも大好評の小田全宏氏が、経営者セミナーに登場しました。小田氏は全国で年間300回もの講演を行っていて、ユーモアを交えたお話は迫力満点です。今回も30個の単語を瞬時に覚えるパフォーマンスで会場を驚かせつつ、「記憶力を高めると脳が活性化し、経営判断が早く、適確に行えるようになる」と力説され、会場の皆さまは大いに触発されたようです。

### 最も大切なのは人間力

最近、「能の活性化」という表現が良く使われています。しかし、活性化する仕組みを理解して、きちんと実践しているのかというと、実はほとんどできていないのが現状です。

知能指数を表すIQに代わって、心の知能指数と呼ばれるEQが有名になりました。勉強は確かに大切ですが、勉強ができるだけでは人としての魅力がありません。例えば、私が師事した松下幸之助もそうでしたが、世の中には学業の成績とか学歴には関係なく、突出した成功者がたくさんいます。それはやはりEQ、つまり人間力の高さだと思います。

私たちの脳には、約140億の細胞があるといわれてきました。ところが最近の研究では800億という人もいます。要するに、まだ分からないことだらけなのですが、ただ一つ確実に分かっていることがあります。それは、天才と呼ばれる人の脳もそうでない人の脳も、構造はほとんど変わらないということです。

では、どこが違うのでしょうか。それは、脳の使い方です。彼らは、学習の仕方がとても上手なだけだったのです。

私は「アクティブ・ブレイン・セミナー」という記憶力のセミナーを何回もやっていますが、実はこのセミナーをやるつもりは全くありませんでした。人間力のセミナーが本業ですから、頭が良くなるセミナーなど、本当に興味がなかったのです。ところが、2年ほど前に、福岡で高校の先生に対してリーダーシップセミナーをやった時、先生から「生徒に覚えさせるのが大変だ」という話を聞きました。私が記憶させることなど簡単だと言うと、その場でやってみろという話になり、単語30個をすぐに覚えてみせたのです。それがすごいという評判になり、いろいろなところから頼まれて、記憶力のセミナーもやるようになりました。

### 脳の回路をスムーズに動かす

アクティブ・ブレイン・セミナーで記憶力

を高める訓練をすると、どこが変わるのかというと、脳の処理速度が変わります。実際、私も会社やNPOなど10の団体で仕事をしていますが、ほとんど苦になりません。セミナーに出席された方からも「夜中までかかっていた仕事が、すぐに終わるようになった」「やるべきことが、はっきりと見えるようになった」「コミュニケーション能力が高くなった」という話をよく聞きます。

脳のトレーニングを比喩的に表すと、記憶の回路の中で詰まっているものを取り去って、スムーズに流れるようにすることです。だから、セミナーでは「無理に覚えなくてもいいですよ」とは言いません。それは優しさではないと思います。「できるまでやってください」と言い、実際にやってもらうと、できた瞬間からはっきりと変わったことが分かります。参加者からは「頭が熱い」「頭の芯が痛い」という声を聞いたことがありますが、それは使っていなかった脳の部分をいきなり使ったからでしょう。

よく「詰め込み教育はいけない」といわれます。しかし、10しか容量がないところに100を詰め込んだら確かに詰め込みですが、人間の脳の容量はものすごく大きく、いくらでも入ります。特に子どもに記憶力のトレーニングをやると、それを実感できます。

私はある学習塾で中学受験に必須の四字熟語を70個、40分間で覚えさせたことがあります。40分後に試験をやると、ほぼ全員が満点でした。

### 夢と目標が脳を活性化

私は詰め込むために記憶力を高めているのではなく、詰め込まないためにやっているのです。詰め込みとは、嫌々やるから詰め込みになります。勉強が楽しいと思うようになれば、決して詰め込みとは感じません。記憶力が高まれば、「自分ができる」という自信がつき、その結果、すべての教科の成績が目に見えて上がっていきます。

つまり、子供たちに記憶のメカニズムに基づいて、きちんと教えてあげればいいのです。国語や算数、理科、社会などの勉強は学校で教えますが、記憶する方法を全く教えていないのは、大きな損失だと思います。

大人でも、記憶力が高まれば人としての尊厳や自信を回復することが可能です。記憶力が弱いだけで、いろいろなことを諦めたり、自分は駄目だと思っている人は多いでしょう。

ここにいる経営者の皆さまは成功者といえますが、それでも記憶力を高めると、脳が活性化して直観力や判断力が高まり、経営成績を目に見えて上げることができます。何かの問題に直面した時、打つべき手ややるべき方向性がはっきりと、しかも適確に見えるようになるからです。重要な判断は、5分以内に下せということがよく言われますが、次回もう一度考えようという態度では、経営者としては失格です。

私は、脳の仕組みを教えることはできませんが、脳の使い方を教えることはできます。ただ、せっかく脳の使い方が分かっても、何もしない人もいます。それとは逆に、見違えるように行動的になる人もいます。大切なのは、自分の人生の中で、夢と目標をはっきりと持つことです。その時、脳も活発に動きまわります。人間の脳の可能性、つまり、人間の可能性はとても大きいのです。

#### Profile 小田全宏

1958年、彦根市生まれ。東京大学法学部卒業後、(財)松下政経塾に入塾し、一貫して人間教育を研究。1991年(株)ルネッサンス・ユニバーシティを設立して、多くの企業で、「陽転思考」を中心に人材教育実践活動を行う。1996年地球市民会議(NGO)、リンカーン・フォーラムを設立し、全国で立候補者による「公開討論会」を実現。現在、民間シンクタンク「NPO法人 日本政策フロンティア」理事長、「NPO法人 富士山を世界遺産にする国民会議」運営委員長など、多くの企業、団体の運営に携わっている。